

## 科目 「文学国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文 A	単位数	3 単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編文学国語』 (大修館書店)				
副教材等	『国語必携 ライトパーカクト演習』 (尚文出版)、常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	① 近代以降の様々な文章、特に隨筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てるここと、多様な文章や考えに触れることで想像力を働かせ、感動したことを共有する力を育む。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	・隨想「そとみなかみ」 (角田光代)	・隨想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。作品に触れることで、自分自身の生き方を振り返る機会とする。	・一斉授業(座学)	平常考查
5	・小説「ナイン」(井上ひさし)	・友情をテーマにした小説を読み、人の心のありようを味わう。	・言葉でスケッチ ・ライトパーカクト演習	中間考查 学期末考查 提出物
6				
7				
9	・四面楚歌 (史記)	・中国の古典に触れ、人の情感の普遍性を味わう。	・一斉授業(座学)	平常考查
10	・小説「神去なあなあ日常」 (三浦しきん)	・家族をテーマにした小説を読み、愛情の形に触れる。	・エッセイを書こう	中間考查
11		・隨想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。	・ライトパーカクト演習	学期末考查
12	・隨想「柿」 (畠中 恵) ・小説「山月記」(中島敦)	・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。		提出物
1	・小説「山月記」(中島敦)	・山月記を読んだ感想をまとめ、人生の在り方について考える。	・一斉授業(座学)	平常考查
2	・「方丈記」(鴨長明)	・鎌倉時代の隨想の冒頭をよみ、日本人の感性を知る。	・クラスの作品集をまとめよう	学年末考查
3	・小説「おぼろ月」(藤沢周平)	・時代小説の世界を味わう。	・ライトパーカクト演習	提出物

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法	
		【 】は評価方法	【 】は評価方法
表現と理解に役立てるための文法・語句 ・語彙・漢字などを理解し、基本的な知識を身につけようとしている。 【定期考查・提出物出席状況】	自分の意見をまとめ、質問に即して文章の要旨のまとめ等を通して、適切に読み取ろうとしている。 【定期考查・授業態度】	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。 【提出物・授業態度・発表】	

## 4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考查	40	30	30	100	学習到達度の確認
平常考查	40	30	30	100	予習・復習の確認

## シラバス・観点別評価基準

令和7年度

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	全学科	3	2	新選歴史総合(東書)	なし

## 1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題について考察したことを効果的に説明したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
評価の方法・割合等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	平常課題 夏課題 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

## 2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 1節 2節	歴史の扉 「歴史と私たち」 「歴史の特質と資料」	4	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
第2章 1節 2節	近代化と私たち 「近代化への問い」 「結びつく世界と日本の開国」	4 5	・18世紀の東アジア諸国の諸相について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付ける。 ・工業化と世界市場の形成について、概念的に理解している。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などについて考察し、結果を表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などについて考察し、結果を表現している。
第2章 3節	国民国家と明治維新	6 7	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、概念的に理解している。	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア諸国に与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて考察し、結果を表現している。
第2章 4節	近代化と現代的な諸課題	7	・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解し、説明している。	・近代化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。

第3章 1節 2節 3節 4節	國際秩序の変化や大衆化と私たち 「國際秩序の変化や大衆化への問い合わせ」  第一次世界大戦と大衆社会  経済危機と第二次世界大戦  國際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	9  10  11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。</li> <li>・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。</li> <li>・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問い合わせを表現している。</li> <li>・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</li> <li>・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</li> <li>・国際秩序の変化や大衆化と私たちにおける自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</li> <li>・国際秩序の変化や大衆化と私たちにおける自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</li> </ul>
第4章  1節 2節 3節 4節	グローバル化と私たち  グローバル化への問い合わせ 冷戦と世界経済  世界秩序の変容と日本  現代的な諸課題の形成と展望	12  1  2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について、概念的に理解している。</li> <li>・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について、概念的に理解している。</li> <li>・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解し、説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などについて考察し、結果を表現している。</li> <li>・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などについて考察し、結果を表現している。</li> <li>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題を展望するなどして、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</li> <li>・「歴史総合」で学んだ全ての内容における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学びに向けての課題を見いだそうとしている。</li> </ul>

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学A	全学科選択	3	2	最新 数学A(数研出版)	パラレルノート数学A(数研出版)

## 1 科目の目標と評価の観点

目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	
評価割合等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

## 2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

第1章 第1節 場合の数	学習内容	月	観点別評価規準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第2節 確率	1. 集合	4	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。	○日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。
	2. 集合の要素の個数		○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ○和集合や補集合の要素の個数の公式を用いることができる。	○ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。
	3. 樹形図、和の法則、積の法則	5	○場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。 ○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。	○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。	○1つの原則を決めて、樹形図などをを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。
	4. 順列		○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	○積の法則から順列の公式を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	
	5. 円順列と重複順列	6	○円順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。	○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、円順列、重複順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。
	6. 組合せ		○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組分けの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。	○組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
第2節 確率	7. 確率の意味	7	○確率の意味を理解している。		○身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。
	8. 確率の計算		○事象を集合で表すことができる。 ○試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。	
	9. 確率の基本性質		○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。		○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。
	10. 和事象の確率		○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。		○一般的な和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。

1 余事象の確率	9	○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。	○補集合とともに、余事象を考察することができる。	
		○独立な試行の意味を理解している。 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○2つの独立な試行を行うとき、その結果として起くる事象の確率について考察することができる。	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。
		○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○反復試行の確率を、具体的な例から直感的に考えることができる。	○具体的な事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。
		○条件付き確率の定義、意味を理解している。 ○条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。		○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。
		○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。		
三角形の性質	10	○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。
		○外心・内心や重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。	○三角形の3辺の垂直二等分線や3つの角の二等分線及び3本の中線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。
第2節 円の性質	4. 円周角の定理	11	○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。	
	5. 円に内接する四角形		○円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。
	6. 円と接線		○円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	○円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。
	7. 接線と弦の作る角		○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。
	8. 方べきの定理		○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。 ○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。
第3章 1 約数と倍数	1. 約数と倍数	12	○約数・倍数の意味を理解している。	○日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。
	2. 素数と素因数分解		○「エラトステネスのふるい」を利用して、100以下の素数を求めることができる。 ○自然数の素因数分解を求めることができる。	○数学史に興味・関心をもつ。 ○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。
	3. 整数の割り算		○整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式として捉えることができる。 ○カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。	○問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 ○カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。
不定方程式	1. 最大公約数		○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。	
記数法	2. 現代の記数法	1	○記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。 ○n進法の整数を10進法で、10進法の整数をn進法で表すことができる。	○現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を理解している。 ○コンピュータなどの身近な物に、n進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。

令和7年度 化学基礎 シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級
化学基礎	2 単位	3 年農業科・園芸科・生活文化科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（化基 702），ニュースポート新編化学基礎	

## 1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
  - ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習活動	考 查 範 囲	評価の方法		
					知 4 割	思 3 割	主 3 割
1 学 期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か (2h) 化学とは何か	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。	1 学 期 中 間	○	○	○
	5	1編 化学と人間生活 2章 物質の成分と構成元素 (8h) 1節 物質の成分 (3h)	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分を分離する方法があり、物質の性質によるものであることを理解する。		○	○	○
		2節 物質の構成元素 (3h)	・物質を構成する元素は、約 120 種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。		○	○	○
		3節 物質の三態 (2h)	・物質には三態があり、それぞれ構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって体積がどのように変化するか、粒子のふるまいと関係について考察する。		○	○	○
	5	2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 (5h) 1節 原子の構造 (2h)	・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。		○	○	○
2 学 期	6	2節 電子配置と周期表 (3h)	・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。	1 学 期 期 末	○	○	○
	7	2編 物質の構成 2章 化学結合 (14h) 1節 イオンとイオン結合 (4h)	・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づく。		○	○	○
		2節 分子と共有結合 (6h)	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。		○	○	○
		3節 金属と金属結合 (2h)	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してきた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。		○	○	○
2 学 期	9	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 (10h) 1節 原子量・分子量・式量 (2h)	・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。	2 学 期 中 間	○	○	○
	10	2節 物質量 (2h)	・粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。		○	○	○
		3節 溶液の濃度 (2h)	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。		○	○	○
		4節 化学反応の表し方 (2h)	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。		○		
	11	3編 物質の変化 2章 酸と塩基 (10h) 1節 酸と塩基 (3h)	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。		○	○	○
3 学 期		2節 水素イオン濃度と pH (3h)	・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることがわかる。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pH でも表せることがわかる。	2 学 期 期 末	○	○	○
		3節 中和反応と塩の生成 (2h)	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定して考察する。		○	○	○
	12	4節 中和滴定 (2h)	・中和の条件は、酸から生じる $H^+$ の物質量と塩基から生じる $OH^-$ の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。		○	○	○
	1	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 (14h) 1節 酸化と還元 (3h)	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。		○	○	○
3 学 期		2節 酸化剤と還元剤 (5h)	・代表的な酸化剤、還元剤は過マンガン酸カリウムや過酸化水素などであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。	学 年 末	○	○	○

## 科目「体育」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科 2学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2023				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	体つくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。	一斉・グループ	ラジオ体操
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。	個別	水泳
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ。		球技
7		○仲間との協力とともに技能を高める。		補習（水泳）
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ	球技
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。	個別	陸上競技
11	陸上競技（長距離走）	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		補習（長距離）
12	球技選択			ロードレース
1	体つくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ	球技
2	球技選択		個別	陸上競技
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身についている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

## 4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 3年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル② (数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート② (三省堂)				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなど総合的な言語活動を通して4技能5領域を育成する。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

## 2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】（=【主】）、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 4 Digital Detox	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】	・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表したりする。	平常考査 中間考査
		・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・seem + to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。	
6 7	Lesson 6 The High School Hair Salon	・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。	・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について発表する。	平常考査 期末考査
		・Bye Bye Plastic Bags 計画を理解するために概要や要点を把握しようとする。【主】 ・過去完了形の用法を理解している。【知識・技能】 ・環境のために自分ができることを情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・過去完了形 ・環境のために自分ができることについて英語で書く・発表する。	
9 10	Lesson 8 Nudge パフォーマンステスト Lesson 9 The Father of Braille Blocks	・ナッジについて理解を深めるために、本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・関係代名詞 what の用法を理解している。【知識・技能】 ・身の回りの問題の解決策について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 ・点字ブロックの開発者について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・関係副詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・誰もが暮らしやすい社会について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関係代名詞what ・関係副詞 ・誰もが暮らしやすい社会について書いたり、話したりする。	平常考査 中間考査
		・日本のサービスに対する留学生の考えについて概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・使役動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・必要・不要だと思うサービスについて英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・使役動詞 ・サービスについて意見を書いたり、発表したりする。	
11 12	Lesson 10 Do We need That? パフォーマンステスト	・日系が 人の野球チーム バソルバ - 朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・知覚動詞 +O+動詞の原形 ・人権問題について学ぶ。	平常考査 期末考査
1 2	Lesson 11 The Vancouver Asahi パフォーマンステスト	・日系が 人の野球チーム バソルバ - 朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・人権問題について学ぶ。	平常考査 学年末考査

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

## 科目「課題研究」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究	単位数	2単位	学年・学科	3学年・生活文化科
使用教科書	なし				
副教材等	農業と環境（実教）、生物活用（実教）				

### 1 学習を始めるにあたって

科目的特徴	農業・情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、社会的な意義や役割を理解させるとともに、農業・情報に関する諸問題を主体的、合理的に解決し、創造的、実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業・情報の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、管理能力や企画力などの改善を図る実践的な態度を育てる。
取得可能な資格	特になし。
授業を受ける心構え	主体的に課題設定を行い、課題解決学習ができること。主体的な農業学習が行えること

### 2 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	課題設定	・情報活用の可能性を探り、課題解決に必要な知識と技術を身につけさせる。	・班別実習	課題レポート 技能試験 学習発表
5	情報処理技術の習得			
6				
7				
9	草花及び農作物の栽培	・草花及び農作物栽培の応用的な活用方法	・班別実習	課題レポート 実技試験 学習発表
10	管理プロジェクト学習	について知見を深め、個々の研究実践を通して、主体的にプロジェクト学習に取り組むことができる。		
11				
12				
1	プロジェクト学習のまとめ	年間の研究のまとめを行う。 プロジェクト学習の成果をまとめ、検証し、報告させる。	・班別実習	課題レポート 学習発表
2				
3				

### 3 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各自のテーマに基づいたプロジェクト学習に必要な基本的な知識 ・技能が身についている。調査 ・研究の記録と分析がきちんとできる。	農業と情報の見方と考え方を生かし、プロジェクト学習の成果について分析と検証を行い、的確に表現できる。	農業と情報について興味関心を持ち、管理実習や自ら計画を立てたプロジェクト学習について意欲的に取り組もうとしている。

### 4 評価項目と割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、果樹の意義や役割を理解している。	諸問題の解決を目指し思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価の方法・割合	・学習（実習）状況	・授業記録　・課題レポート ・学習（実習）状況　等	・学習（実習）状況 ・課題レポート ・プロジェクト発表
	3割	3割	4割

# 科目「総合実習」シラバス

シラバス・観点別評価基準

令和7年度版

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	総合実習	生活文化科	3	3	なし	農業と環境 実教出版

## 1 科目の目標と評価の観点

目標	農業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
	知識・技能（術）	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けることができたか。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
	定期考查 平常考查（技能試験等） 課題レポート	定期考查 授業記録 平常考查（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	学習（実習）状況 等
評価の方法・割合等	4割	3割	3割

## 2 学習計画と観点別評価規準

※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
栽培と飼育、環境等に関する基礎的な実習	4 7 11 1	栽培と飼育、環境等に関する基礎的な知識を理解している。 栽培と飼育、環境等に関する総合的な技術を身に付けています。	栽培と飼育、環境等の基礎的な知識と技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	栽培と飼育、環境等に関する基礎的な知識と技術について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
農業の各分野に関する総合的な実習	5 6	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法について理解している。 農業の各分野に関する総合的な技術を身に付けています。	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
農業の産業現場等における総合的な実習	7 9 2	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法について理解している。 農業の産業現場等における総合的な技術を身に付けています。	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
学校農業クラブ活動	5 10 12	学校農業クラブの諸活動について理解している。 学校農業クラブの諸活動について関連する技術を身に付けています。	学校農業クラブの諸活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	学校農業クラブの諸活動について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている

令和7年度版

**科目「草花」シラバス**

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	草花	単位数	6単位	学科・学年	生活文化科・3学年
使用教科書	『草花』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

**1. 学習を始めるにあたって**

科目の特徴	農業の草花に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることでできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	草花への興味・関心を持ち積極的に学び深めること。草花の魅力発信につながるように、日々の活動に協働的に取り組むこと。

**2. 学習指導計画**

月	学習内容（目次の項目）	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	2. 生活と草花の利用	「草花の多面的利用」、「園芸デザイン」	実習	課題レポート 定期考查 平常考查
5	実習（肥培管理、販売等）	について理解し、活用に必要な技術を習得する。	知識学習	
6	プロジェクト学習	する。プロジェクト学習に主体的・協働的に取り組むことができる。	プロジェクト学習	
7				
9	6. 花壇用草花生産	「花壇用草花生産の特色」「花壇用草花の栽培」について理解し、活用に必要な技術を習得する。	実習	
10	実習（肥培管理、販売等）	プロジェクト学習に主体的・協働的に取り組むことができる。	知識学習	
11	プロジェクト学習		プロジェクト学習	
12				
1	7. 草花経営の改善	「草花経営の改善」について理解すること	知識学習	
2	プロジェクト学習	ができる。	プロジェクト学習	

**3. 評価の観点**

知識・技術 (3割)	思考・判断・表現 (3割)	主体的に学習に取り組む態度 (4割)
草花の各分野に関する基礎的な知識・技術を身に付け、草花の意義や役割を理解している。草花に関する栽培管理の技術を適切に実践する。	草花に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、草花に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	草花の栽培に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
【定期考查・平常考查・提出物・実習態度】	【定期考查・平常考查・提出物】	【提出物・授業や実習態度・出席状況】

## 科目「地域資源活用」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	地域資源活用	単位数	2単位	学科・学年	生活文化科・3学年
使用教科書	地域資源活用（実教出版）				
参考資料					

## 1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農林業や農山村の特色や地域資源の有用性を理解し、それを活用した地域振興を学習する。また、地域振興の担い手として、農業と農村の持つ多面的な特質を地域資源として捉え、その価値や活用について学習する。
学習の到達目標	(1) 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	地域振興の担い手としての意識を持ち、地域資源の活用方法を協力しながら考えていくこと

## 2. 学習指導計画

月	学習内容（目次の項目）	学習活動・ねらい	実習・演習	その他 考査
4	1. 地域資源活用とは	農山村社会や地域振興について理解するとともに、課題意識を持って学習に臨み、地域資源活用に関するプロジェクト学習の意義とその位置づけを理解する。	・一斉授業	定期考査
5	2. 農山村社会の変化と地域振興		・実習	平常考査
6				
7				
9	3. 地域資源活用の意義と役割	地域資源活用の意義と役割について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。菊池地域における資源の特徴を知り、その魅力について理解する。	・一斉授業	定期考査
10			・実習	平常考査
11	4. 地域資源の価値と活用			
12	5. 地域と連携した活動	地域資源の活用について、主体的かつ協働的に取組み、地域資源のマーケティングと地域のニーズや地域ブランドづくりについて理解する。	・一斉授業	学年末考査
1			・実習	平常考査
2				

## 3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 (3割)	思考・判断・表現 (3割)	主体的に学習に取り組む態度 (4割)
	地域資源活用について体系的に理解しているとともに、関連する知識を身に付けている。 【定期考査・平常考査・提出物・実習態度】	地域資源活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【定期考査・平常考査・提出物】	地域資源活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【提出物・授業や実習態度・出席状況】

## 科目「保育基礎」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保育基礎	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年・生活文化科
使用教科書	保育基礎（実教出版）				
副教材等	保育基礎学習ノート（実教出版）				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	子どもの発達の特性や発達過程を学び、保育に関する知識と技術を習得する。
学習の到達目標	子どもの発達や子育てに关心を持ち、子どもに関わることができるようになる。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	子どもや子育てに対して興味・関心を持つ。

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	1章 子どもの保育	保育の意義、保育環境について考える、子どもの発達の特性を知り、支援の方法を考える。	絵本の読み聞かせ 季節の飾り付け 保育園実習 保育講話	レポート提出 学期末考查
5	2章 子どもの発達			
6				
7				
9	3章 子どもの生活	生活と養護 生活習慣の形成、健康管理と事故予防、子どもの文化の意義、子どもの遊びと表現活動を考える。	絵本製作 保育園実習 季節の飾り付け おやつ調理実習 DVD視聴	レポート提出 学期末考查
10	4章 子どもの文化			
11				
12				
1	5章 子どもの福祉	子ども観、子どもの福祉、子育て支援	おもちゃ制作	レポート提出 学年末考查
2				
3				

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
子どもの生活と保育などに関する知識を身に付け、保育の必要性や重要性を理解することができる。子どもの発達に応じて適切にかかわるための技能を身に付けています。学習で学んだ知識や技能を日常生活に活かす力を身に付けています。 【定期考查、平常考查、実習の記録】	子どもの健やかな発達を支えるため、子どもとの適切なかかわり方や現代社会における保育環境について課題を見いだし、その課題に対して思考を深め、学習したことを活用し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けています。 【定期考查、平常考查、レポート、授業態度】	子どもとの関りと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして改善しようとしている。グループ活動では自分の作業のみならず、様々な人と協働し、作業を行うことができる。学習内容を自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 【授業態度、出席状況、レポート】
4割	3割	3割

## 科目「生活と福祉」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭科	単位数	2単位	学年・学科	3学年・生活文化科
使用教科書	生活と福祉（実教出版）				
副教材等	なし				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	高齢者福祉を中心とし、生涯にわたる健康と生活の管理及びそれを支える社会保障・福祉制度などに関する知識と技術の習得をさせる。
学習の到達目標	家庭看護や高齢者看護の充実を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	特記事項なし
授業を受ける心構え	高齢者を敬い、看護・福祉に携わる人への敬意を持ち、授業に取り組む。

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	人の一生と生活・健康 高齢化の現状と高齢者の特徴 介護・看護の実習と生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の生活と健康、QOLについて考える。</li> <li>・家族の健康管理や病気の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防について理解する。</li> </ul> </li> <li>・高齢化や高齢者の心身の特徴を理解する。</li> <li>・基本的な介護・看護技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者疑似体験</li> <li>・ベッドメイキング</li> <li>・体位交換</li> <li>・救急手当</li> </ul>	レポート提出 小テスト 学期末考查
9 10 11 12	高齢者の自立生活支援 介護・看護の実習と生活支援 高齢者支援の法律と制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活支援の方法を考える。</li> <li>・介護・看護の技術を身に付ける。</li> <li>・福祉・高齢者に関する法律と制度を知り、今後の高齢者支援について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす介助</li> <li>・衣服の着脱介助</li> <li>・食事介助</li> <li>・UDの介護服</li> <li>・UDフード調理</li> </ul>	レポート提出 小テスト 学期末考查
1 2 3	介護・看護の実習と生活支援 レクリエーション実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護・看護の技術を身に付ける。</li> <li>・高齢者や障がいのある方とのレクリエーション方法について理解し実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション演習</li> </ul>	レポート提出 学年末考查

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【 】は評価方法	【 】は評価方法	【 】は評価方法
福祉の各分野に関する基礎的 ・基本的な知識を身に付け、 福祉に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。  【小テスト、定期考查】	福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切にそれを判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。  【レポート、定期考查、 小テスト、実習の記録】	介護・看護に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指し主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。  【授業態度、出席状況、レポート】
4割	3割	3割

## 科目「ファッション造形」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	ファッション造形	単位数	6単位	学年・学科	3学年・生活文化科
使用教科書	ファッション造形 (実教出版)				
副教材等	なし				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	被服製作に関する知識や技術を身に付け、主体的に衣生活を営む力を高める。
学習の到達目標	衣服の縫製に関する知識を習得した上で、応用的な技術を身に付ける。
取得可能な資格	全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級 (和服または洋服)
授業を受ける心構え	衣生活における知識や技術の定着を図り、環境との繋がりを考え、実生活で活かす。

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	4章 和服の製作	・和服構成(平面構成)を理解する。 ・和服の縫い方・布端の始末の仕方を身に付ける。 《浴衣製作》 家庭科技術検定1級(和服)	・一斉授業 ・作品製作	作品提出 中間考查 学期末考查
9 10	1章 衣服とデザイン 2章 ファッションショーの作り方	・浴衣の着付けができる。 ・デザインや素材の選定ができる。 ・作品のコーディネートができる。 ・ファッショショナーに向けての製作 ・ファッショショナーの構成	・一斉授業 ・作品製作	作品提出 中間考查 学期末考查
11 12	3章 洋服の製作	《自由課題製作》		
1 2 3		・洋服の縫い方・始末の仕方を身に付ける。 ・衣生活とSDGS ・作品についてのまとめ ・余り布を用いたパッチワーク製作	・作品製作	作品提出 学年末考查

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・ファッショ製品の製作に必要な知識が身についている。 ・目的に適う技術を用いることができる。 ・課題に対して確実な知識・理論を考察し活用できる。 【 考査、レポート】	・自分の体型、着用目的、イメージするデザインに適したファッショ製品を、適切な技術と知識を用いて表現・製作できる。 【 レポート、作品】	・手本に近づくために、何度も素直にやり直すことができる。 ・計画に従って、能率的に作業を進めることができる。 ・提出物を期限内に提出できる。 【 授業態度、出席状況、レポート】
4割	3割	3割

## 科目「調理」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭科	単位数	6 単位	学年・学科	3学年・生活文化科
使用教科書	調理1 (実教出版)				
副教材等	なし				

## 1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食生活の充実向上を目指し、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
学習の到達目標	調理の基礎・献立作成などについて理解し、関連する技術を身に付ける
取得可能な資格	全国高等学校家庭科食物調理技術検定準1級および1級
授業を受ける心構え	食生活を栄養的役割や文化的な意義、精神的な満足と合わせて学習する

## 2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	1章 食の文化	・食品の特徴と性質を理解させる。	・一斉授業	平常考查
5	食物調理技術検定準1級	・料理様式と献立を理解させる。	・調理実習	中間考查
6		調理実習①「西洋料理」		レポート提出
7	2章 調理の基本	調理実習②「日本料理」 ・検定試験について理解し、日常食の献立を立てることができるようになる。 ・献立どおりの作品を仕上げることができるようになる。		学期末考查 レポート提出 食物検定
	プロジェクト学習			
9	3章 調理の種類と献立	調理実習③「中国料理」	・一斉授業	平常考查
10	食物調理技術検定1級	調理実習④「日本料理(行事食)」	・調理実習	中間考查
11	筆記試験対策	・検定試験について理解し、供応食の献立を立てることができるようになる。		レポート提出
12	実技試験対策	・献立どおりの作品を仕上げることができるようになる。		学期末考查
	プロジェクト学習			
1	4章 大量調理	・大量調理の手法や注意点について理解させる。	・一斉授業	学年末考查
2			・調理実習	レポート提出
3	プロジェクト学習			

## 3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
食品や栄養、調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、食分野に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 食品や栄養、調理に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、健康的な食生活の意義や役割を理解している。 【定期考查、実技テスト、平常考查、課題プリント等】	現代の調理に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 食品の調理性や栄養的特徴を理解し、適切な判断をして実習に取り組んでいる。 【定期考查、レポート、課題プリント等】	自分自身の食生活に関する課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 調理に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【レポート、課題プリント、授業態度等】
4割	3割	3割